

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所うきわく		
○保護者評価実施期間	令和8年 12月 1日		～ 令和8年12月 19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	令和8年 12月 1日		～ 令和8年 12月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の特性に応じた支援	アセスメントを丁寧に行い個別支援計画に基づいた関わりを実践している。集団活動の中でも個別の配慮を行い必要に応じて環境調整や声掛けの方法を統一している。	支援経過の記録をより具体的に整理し、評価・見直しの機会を定期的に設ける。
2	職員間の連携体制	日々のミーティングや申し送りを通して情報共有を行い支援方針の統一を図っている。特定の職員に偏らないようにしている。	定期的な振り返りの場を設け支援の質や連携体制の向上に努める。
3	活動内容の多様性	多様な活動を取り入れ、楽しみながら社会性等を育むことを意識している。	活動のねらいや目的を明確化し発達課題に応じたプログラムの体系化を進める。高学年児童も見据えた自立支援活動を充実させていく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援の専門性の更なる向上	日々の支援には丁寧に取り組んでいるが、思春期支援や行動面への専門的対応などについて学ぶ機会が十分とは言えない。	年間研修計画をさらに明確にし障害特性理解や行動支援に関する研修を計画的に実施する。
2	支援内容の見える化・評価体制	支援の意図や成長過程の評価について保護者に十分に伝えきれてない部分がある。	個別支援計画の評価を具体的に行う。
3	業務効率及び体制整備	支援を優先する中で業務分担の明確化や効率化について改善の余地がある。放課後の限られた時間内で活動と送迎を行うため、業務が集中しやすい事が要因と考える。	役割分担を再確認し、業務の整理・標準化を進める。ミーティングの効率化や支援の質を維持しながら運営体制を強化する。